

国営土地改良事業等再評価
現地調査概要

北海道開発局 農業水産部

目 次

(国営かんがい排水事業)

道央用水地区	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
篠津中央二期地区	・・・・・・・・・・・・・・・・	2
勇払東部地区	・・・・・・・・・・・・・・・・	3

平成 28 年度 再評価「道央用水地区」国営事業評価技術検討会
現地調査概要

日 時：平成 28 年 5 月 25 日（水） 10:45～16:30

出席者：（技術検討会）長澤委員長、岡村委員、紺野委員、中原委員、波多野委員、森委員

（地元関係団体等）農業者、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、夕張市、岩見沢市、南幌町、由仁町、長沼町、栗山町、由仁町、JA 道央、JA そらち南、JA ながぬま、JA 南幌町、新えべつ土地改良区、恵庭土地改良区、夕張土地改良区、北海土地改良区、由仁土地改良区、ながぬま土地改良区、栗山土地改良区、安平町土地改良区

事務局：北海道開発局

概 要：

【現 地】整備箇所（夕張シューパロダム、整備ほ場）

【意見交換会】

委員から、事業に対する効果、要望、期待等に関する質問があり、参加団体から以下の回答や意見、状況説明等や委員から評価に関する意見があった。

・これまでは毎年のように水不足により取水制限が実施されていたが、平成 27 年より夕張シューパロダムから農業用水の供給が始まり、今後は取水制限がなくなると期待している。

また、適期に代かきや田植え、深水かんがいを実施できるようになり、米の品質もよくなると思う。

・最近では、水稻の直播栽培や飼料用米の取組も増えてきている。また、たまねぎへのかん水、集中管理孔による畑作物への地下かんがいなども実施しており、十分な水の確保は重要である。

・客土や暗渠排水の整備を実施したことで、肥料の蓄積がなくなり、タンパク値が低くなることで、美味しい米がとれるようになったと感じている。

・基盤整備の結果、ほ場面積が大きくなり、作業効率も良くなり、若い人たちが大規模経営に取り組んでいる。また、インターネットで米を販売するなど、消費者の顔を見ながら生産販売を行っている。

・稲藁の堆肥化や作物の種子の温湯消毒など、クリーン農業の取組を進めている地域もある。また、Yes!Clean の認証制度については、市場に付加価値としてとらえてもらうことが重要である。

以上

平成 28 年度 再評価「篠津中央二期地区」国営事業評価技術検討会
現地調査概要

日 時：平成 28 年 5 月 24 日（火） 10:20～14:45

出席者：（技術検討会）長澤委員長、岡村委員、紺野委員、中原委員、波多野委員、
森委員

（地元関係団体等）農業者、江別市、当別町、新篠津村、月形町、JA 北いし
かり、JA 新しのつ、JA 月形町、篠津中央土地改良区、新篠津土地改良区

事務局：北海道開発局

概 要：

【現 地】整備箇所（石狩川頭首工、中小屋揚水機場、整備ほ場（集中管理孔））

【意見交換会】

委員から、事業に対する効果、要望、期待等に関する質問があり、参加団体から以下
の回答や意見、状況説明等や委員から評価に関する意見があった。

・水はこの地域で非常に重要であり、平成 26 年に新石狩川頭首工が供用を開始した
ことにより、降雨が少ない時期でも篠津運河に適正な量の取水が可能となった。また、
幹線となるパイプラインの圧力も確保され、末端まで水が配水されるようになり、作
業も順調にできるようになった。

・麦や大豆など、いわゆる土地利用型の作物について、適期の防除や地下かんがい
による給水が可能となった。また、レタスやブロッコリーなどの野菜類への定期的な防
除、施設園芸においてもハウスへの定期的な用水供給が行えるようになり、用水が潤
沢にあることで非常に助かっている。

・代掻き期や田植え時期には、バルブを開けると用水が潤沢に供給されるようになり、
なるべく濁水を流さないよう、水を少なく張り、足りなければ足す、という意識へ変
化し、地域では環境保全についても気をつけている。

・地域の基幹となるのは米と麦であり、これらの経営を安定させるため、GPS を活
用した自動運転機械の導入などを行い、労働生産性を向上させ、労働力不足の解消を
図った上で、野菜や花きにより収益性を上げていきたい。

・篠津中央地区が完了し、ポンプ場の統廃合に伴う電気代の圧縮や、用水路の管水路
化による維持管理費の軽減により、賦課金の軽減が図られている。加えて過湿被害も
解消され、施設の維持管理を行う支線組合の役務が軽減されている。

以上

平成 28 年度 再評価「勇払東部地区」国営事業評価技術検討会
現地調査概要

日 時：平成 28 年 6 月 16 日（木） 15:00～16:10

出席者：（技術検討会）長澤委員長、岡村委員、中原委員、波多野委員、森委員
（地元関係団体等）農業者、厚真町、むかわ町、JA とまこまい広域厚真支所、
厚真町土地改良区

事務局：北海道開発局

概 要：

【現 地】整備箇所など（美里頭首工、豊川用水路、胆東米ステーション）

【意見交換会】

委員から、事業に対する効果、要望、期待等に関する質問があり、参加団体から以下の回答や意見、状況説明等や委員から評価に関する意見があった。

・支溪流からの用水は、雨不足や降雪が少ない場合、用水不足が度々発生しており、水利員は用水の配分等の管理に非常に苦労しているところ。厚幌ダムの供用開始に合わせて導水路を完成させていただき、早期に安定した用水の確保を望んでいる。

・厚真町の水田については、全道の中でも低タンパク地帯となっており、ゆめぴりかの配分がここ数年増加している。また地域では窒素を抑えたクリーン農業の取り組みにより、低タンパク米の全道的な評価も上がってきているところ。さらに昨年より農薬を基準から半分にするなど、高度クリーン米の取り組みを始めている。

・ほ場整備が終わった水田では暗渠排水が整備されており、本事業により用水が十分に確保されれば、水の出し入れがしっかりでき、高温障害を抑制することができる。また、本事業で用水が配水される水田は、農家戸数は減少しているものの、規模拡大が進むものと思われる。

・排水路については、整備前より緩い法勾配で整備したため、法面が崩れるといった心配も無く、整備前と同様な植生に戻りつつあり、今後は、地域で管理を行って行くこととしている。地域用水機能増進の利活用として、地元の自治会の方々などでワークショップを立ち上げ、管理も含めて話し合いをしながら進めているところ。

・厚真町の代表作物として発信しているハスカップは体に良く機能性の高い作物である。農薬をほとんど使わないクリーンな作物でもあり、安全安心で高品質な作物を生産している厚真町として、他の作物にもリンクして、それぞれが高評価を得られるようにしていきたい。

以上